

令和元年第二回定例会 防災警察常任委員会

令和元年 5 月 17 日

西村委員

本日は、かながわグランドデザイン第3期実施計画素案を御説明いただきましたので、そのことについての御質問をさせていただきたいと思います。

この内容というか、つくりといったらこの委員会の担当ではないのかもしれませんが、納得というか、すっきりしていないというところがありますので御質問させていただきたいのですが、そもそもグランドデザインということを考えたら、事業などの計画が行われる場合に、そういった青写真や設計であって、長期間にわたって遂行されるもののことを言うわけで、もっと言えば、ゴールが決まっていて、逆算してどうしていくのだということがグランドデザインだろうと私は思っていました。であれば、これをやっていけばここに持っていけるという、ここでは指標という形で示していращやるのでしょうか。毎年のことと言うと、K P I ということ示していращやるのだと思うのですが、例えば、特に治安で言わせていただくと、一つ指標をとってみても、県民ニーズ調査の中から、満足度や思う人の割合ということ抽出されていращやるのですね。指標というのが、プロジェクトが達成すべき目的、目指す姿の達成度の度合いを象徴的に表す数値を参考に示しています、と前の方のページであるのですが、それがなぜこうなったのかというのを教えていただきたいと思うのです。まず、確認です。県民ニーズ調査とはこういった調査なのか教えてください。

警務課長

県民ニーズ調査につきましては、県民の皆様の意識、価値観などの変化や多様化する生活ニーズを把握いたしまして、その結果を施策に反映するために政策局が主体となって実施している調査であると承知しております。平成30年度につきましては、県政全体についての基本調査と特定のテーマについての課題調査に分けまして、おのおの神奈川県全域に在住する満18歳以上の方、3,000人を対象として実施している調査と承知しております。

西村委員

県民とおっしゃりながら、今3,000人が対象であるということが一つわかったのですが、では、この治安の項目で指標とされた県民ニーズ調査の設問以外で、治安に関する設問というのはほかにも何かあったのでしょうか。

警務課長

指標として設定いたしました二つの設問のほかに、平成30年度県民ニーズ調査の基本調査におけます治安に関する質問につきましては、犯罪に遭った場合に適切かつきめ細かな支援が十分に受けられることの重要度と満足度に関する設問、青少年の非行が目立ってきたと思う人の割合に関する設問、安全・安心なまちづくりのための地域活動に参加したいと思う人の割合に関する設問が治安に関する設問であると認識しています。

西村委員

設問自体のお話なので、これについて批判をするものではないのですが、た

だ、今伺っていると、満足度、思う人、感じる人、治安ということで考えると、これは体感治安ということが言えるのではないのかと思うのです。いわば感覚的、主観的に感じている治安、それと併せて指数治安というのがあると思うのです。犯罪認知件数や検挙率といった統計上の客観的な数字というものが一つ指数治安として挙げられると思うのですが、例えば、刑法犯認知件数を数値目標としなかった理由というのは何なのでしょう。

警務課長

県警察では、厳しい治安情勢のもと、官民一体となりました治安対策を推進いたしました結果、平成 30 年の刑法犯認知件数につきましては 4 万 6,780 件と、戦後最多の 19 万件を記録いたしました平成 14 年と比較いたしまして約 4 分の 1 までに減少しています。一方、現下の治安情勢に鑑みますと、1 件当たりの被害が高額であります特殊詐欺の撲滅に向けた対策やサイバー空間における脅威への対応、人身安全関連事案への的確な対処など、警察に求められる対応は多様化の一途をたどっておりますことから、刑法犯認知件数だけでは県内の治安を評価することは困難であると考えております。こうした状況を踏まえまして、県警におきましては、県民の皆様の生の声が反映されております県民ニーズ調査結果を指標として決定することとしたところでございます。

西村委員

他の委員会の事案で恐縮であります。昨年、結構問題になりました、知事が未病と言っているが、健康寿命が延びていないではないかという話がありました。健康寿命というのはどういうことかという、健康だと思いませんか、はい、と答えた人が多いところを健康寿命が延びているとしているのです。果たしてこれでいいのかという問題がありました。それと、同じように、今おっしゃった内容はすごく理解するのですが、双方から、双極的に見なければいけないのではないのかと私は思います。例えば、神奈川県でいくら治安の確保をさせていただいたにしても、違うところで重大な犯罪が起こって、それがマスコミで報道されたら、県民には不安に感じます。あるいは、パトロールで回っていただいたときに、振り込め詐欺が発生しました、注意してくださいと言ったら、それは、引締めのために言っていらっしゃる、注意していただくために回っていただいているが、聞いた人は、また振り込め詐欺が起こったのだという印象が残る、どのように捉えられるかというのが、この満足度とか、思う人とか、いわば体感治安でははかり切れないもの、せっかく警察の皆さんが頑張って検挙しても、そのことが反映できない数字というのがあるのではという気がするのです。どういう整合性を持たせながら双方を指標として上げていくのかというのは、ぜひまた今後御検討をいただきたいと思うのですが、その指標のもう一つ、目標値の設定理由、目標値が上がっていますよね。これはどういう根拠でこの数字になっているのですか。

警務課長

一つ目の指標でございますが、犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせることの設問につきまして、満足していると回答した人の割合ですが、平成 19 年度の調査におきまして、過去最高の 26.7%を記録しておりますが、直近 10 年間の平均値は 22.6%という状況でございます。そこで、満足度の底上げを図るた

めに、恒常的にこの最高値を上回らせることを念頭に置きまして、27%と設定したところでございます。

二つ目の指標でございます、今住んでいる地域は、夜、一人歩きをしても安全だと思う人の割合の最高の数値につきましては、平成30年度調査におけます65.9%であります。直近10年間の平均値は58.4%という状況でございます。そこで、この指標につきましても、数値の底上げを図り、恒常的にこの最高値を上回らせることを念頭に置きまして、66%と設定したところでございます。

西村委員

そのことは素案の後ろの方にも書いてございました。最高値を上回る水準ということで数値を出していらっしゃる。治安だけではないですね。安心の方でもそのように書いていらっしゃいます。もっと言えば、ほかの課題についても同じようなことが書いてある。それを上回ることを書いたことによって、例えば、体感治安が良くなるというような根拠や、より安全が確保されたという根拠、いわば積算根拠がないような気がするのです。もちろん、これまでよりも上回ることを目標にするのはもちろんのことなのだが、それがなかったらなぜ27.0%なのか、66.0%だったということの説明がなかなかつかないのではないかなど。今後、このグランドデザインができ上がってきたときに、私たちは地域の皆さんに説明をしなければいけないわけです。ここが、ここまで数値が上がったら、皆さんもっと安心していただけるのですよ、もっと不安を感じなくなるのですよというような説明をさせていただけるように、今後また御説明をいただきたいと思います。今日は治安の項目でやらせていただいて恐縮です。ほかのところも同じようなことを上げていらっしゃるのです。満足度とか、思ったとか、感じたとか。でも、もちろんそれが最終的な目標かもしれないが、その上にある項目のところには本当に実質的なことを書いていらっしゃるのだから、もっと言えば、全然違うことですが、例えば減災で言うと、災害に強いまちづくりというのは、もうほとんど形として見えることです。形として見えることというものもKPIという各年だけのことでなくて、指標でしっかり掲げておいていただいた上で、それによって満足度を上げるというような示し方の方がわかりやすいのではということをお感じいたしました。

それから、最後にもう一つ要望というか、今後検討していただきたいことを申し上げたいと思います。この当委員会に係る三つの中で、ジェンダーの視点が盛り込まれているのは安心だけでした。ただ、私、減災ということも結構入ってくるのではないかと気がします。これまでも、取り組みの中で、SDGsの目標5の、ジェンダーの平等という中で、特に消防団の女性団員さんの拡充はずっと頑張っていたわけですから、であれば、神奈川で今、女性消防団員、団が増えてもきているわけですから、そういった目標も指標の中に掲げていただけたらと要望を申し上げまして、私の質問を終わります。